



#### 表紙

小林英樹

《遙か彼方を見つめる少年 (DEEDS of COLORS)》

1940cm×1303cm 1988年

#### 表紙絵解説

わたしは、神戸に住んでいた1983年頃からDEEDS of COLORSと銘打って作品を発表してきました。心に浮かんだ漠としたものに従い、気持ちの赴くまま、画布上に合成樹脂絵具を置いていく作品です。明確な世界を表出しなくてもよい、いや、成り行き任せ、無理に表出しない方がよいという感じで次々と制作していました。今回の表紙絵もその流れのなかで生まれました。神戸から札幌に引っ越しして二年目、1988年、市内のギャラリーが企画してくれた展覧会に出品した作品です。無我夢中で、3カ月くらいの準備期間に100号、120号を中心に20枚ほどの作品を制作しました。

この作品は、不安の向こうから微かに差し込んでくる希望の光を見つめる少年の姿をぼんやりと想起しながら制作＝色彩行為(DEEDS of COLORS)していた記憶があります。当時は、どの作品のタイトルも《DEEDS of COLORS》で統一しましたが、今回は、この作品に《遙か彼方を見つめる少年》とつけさせてもらいました。

なお、2022年2月10日に教員も含め、愛知芸大音楽学コース関係者8名によって音楽之友社から『音楽と越境』が出版されましたが、その表紙に採用していただいた作品《幼子を背負う母親》と今回の《遙か彼方を見つめる少年》とは連続して一気に描かれた兄弟的作品で、経済的に厳しい状況下で生まれた一枚です。ギャラリーのオーナーが気に入ってくれたので、寄贈しました。

小林英樹